

◆漁業士活用育成事業

平成27年度九州ブロック漁業士研修会

水産海洋技術センター 米丸浩平

1. 目的

九州ブロックの漁業士が漁村地域の活性化や漁業振興等の問題について、相互研鑽するとともに、各地の漁業士との連携を深め、漁業士活動の活性化及び資質の向上を図る。なお、今年度は、漁業士会全国組織結成の是非や、全国会議のあり方について意見交換及び意見集約を図った。

2. 参集範囲

水産庁、九州・沖縄各県の漁業士、漁業組合職員、県職員

3. 日時及び場所

【1日目】

平成28年2月22日

福岡県庁吉塚合同庁舎

【2日目】

平成28年2月23日

糸島漁協船越支所カキ小屋

4. 参加者

八重山漁業協同組合 比嘉康雅会長

5. 引率者

沖縄県水産海洋技術センター普及班
技師 米丸浩平

6. 内容

平成28年2月22日～23日にかけて、福岡県において九州ブロック漁業士研修会が開催された。今年度は漁業士会の全国組織および全国連絡会議について必要の是非を議論するため、比嘉康雅会長が出席した。

初日は、吉塚合同庁舎にて会議があり、水産庁増殖推進部研究指導課海洋技術室坂本室長より「水産業競争力強化緊急事業について」、福岡県水産振興課漁船漁業係佐藤技術主査より「福岡県の6次産業化の取り組み」について講演が行われた。

福岡県の取り組みでは、糸島漁協直売所「志摩の四季」について報告があった。商品の陳列から引取まで生産者が行う所謂ファーマーズ方式で運営しており、家族協働によって漁業者世帯の収入向上に寄与するうえ、後継者育成にもつながっているようであった。

その後、各県漁業士会の取り組みについて報告があり、高齢化や活動の停滞、マンネリ化という課題を多くの県が抱えている印象であった。大分県では、農林水産祭というイベントで農林業部門に継続して出店し、調理した商品を販売することで、水産への意識が薄い人たちにも水産物、漁業士会のPRが出来ているとのことだった。

全国組織、全国連絡会議については、各県の意見を報告して議論となったが、そもそも全国組織設立の目的や漁業士独自の役割があいまいなため、全国漁青連との相違もはっきりせず、各県意見も集約できなかった。

2日目は糸島漁協船越支所のカキ小屋を視察した。同支所は漁船漁業が盛んだが、網漁業が禁止される冬場の収入源としてカキ養殖が始まり、徐々に知名度も上がり今では28軒ものカキ小屋が賑わい、1年を通して漁業収入を得られるようになったようだ。



ブロック研修会議の様子



高度処理水による1次処理槽



賑わいを見せるカキ小屋



糸島漁協船越支所カキ小屋の様子